勉強に向けて「時間をつくる」のは、将来仕事をしていくうえでも大事な経験だと思います

（プロフィール）

髙田　恵理　氏

所　属　熊谷市医師会看護専門学校
勤　続　3 年目
卒業校　熊谷市医師会看護専門学校
　　准看護学科（2 年）看護学科（3 年）

―看護師を志したきっかけはありますか

小学生の頃、母がたびたび入退院をしていました。COVID-19 のような感染症もなかったため、私は都合が良いタイミングで面会をしていました。その頃、ベッドサイドにきて処置をしてくれた看護師さんを近くで見ていました。病院は子どもだった自分にとっては非日常空間だったため強く印象に残っていたのだと思います。 特に“これ”というきっかけがあったわけではなく、それらの体験があり、自然の流れとして将来の職業選択に看護師が挙がりました。

―准看護学科を卒業されてすぐに看護学科に進学されています

同級生のうち、半分くらいが准看護師として就職し、あとの半分が進学しました。

本校の看護学科は、1，2 年生の間は午後が授業時間です。午前中は病院に勤め、13 時半からの授業を受けていました。夜間の業務のこともあったので、仕事から上がり仮眠をとって授業に出ることもありました。

今考えるとハードですが、クラスの大半が似たような形態で働きながら学んでいたため当たり前のように思っていました。ふり返ってみると、みんなで進んでいたから頑張ることができたのだと思います。

―准看護学科から看護学科への進学の時にはどのように勉強しましたか

はじめに試験の内容を確認してゴールを明確にしました。次にゴールに向かって勉強するのですが、勉強が大変ということよりも時間の確保が第一の課題になりました。准看護学科の 2 年次には実習もあります。忙しい中で少しでも時間を確保するために土日を勉強の時間に充てる、あるいは仕事の合間に時間をつくるなどに力を注ぎました。

この時の「時間をつくる」という経験は、看護師として入職してから、また教員への方向転換を決めてからも大事な経験になっています。

―看護学科を卒業されてから教員の道に入られるまでのことを教えてください

看護師の資格をいただき、最初の病院で 3 年、その後異動があり次の病院で 12 年勤務しました。異動先の病院では実習に来た学生の行動計画を確認することに携わっていたことがありました。その頃から、“いつか”看護師を目指す学生の支援をしたいという想いが頭にありました。

その後、結婚して子どもを育て、また家族の健康状態の変化等、家庭の状況が変わりました。キャリアにおける展望に迷いが生まれた中で、在学中から卒業後にわたりお世話になっていた教務主任の先生に仕事のこと、プライベートのことなど諸々ご相談させていただきました。お話させていただいているうちに看護

教員という道が見えてきました。“いつか”と考えていたことを実現させるチャンスをいただきました。

―教員として働き始められていかがですか

私が学んでいた頃よりも、学生には社会人を経られた方や主婦をしながら学ぶ方が増えたと感じています。

皆さん、それぞれの背景や事情がある中で熱心に学んでいる姿が印象的です。お一人おひとりを尊重する気持ちを崩さずに接するように気を付けています。なにかをお伝えするにしても、どんな言葉を選択するのかということはとても大切だと考えておりますので、特に言葉尻には気を配っています。

また、教員としての研鑽を積むことも継続して行っています。今は、埼玉県看護協会で開催されている専任教員養成講習会を受講しております。

看護職は、保健師・助産師・看護師・准看護師とあり、さらにその先にさまざまな道が開けています。様々な可能性があることを示していけるように努めていこうと考えております。

―ご自身の経験から、どんな看護師を育てたいと考えていらっしゃいますか

ベッドサイドに出向いて、患者さんと目を合わせ、身体に触れ、きちんと看ることができる看護師になってもらえたら、と願っています。

電子カルテに入力することに手いっぱいで目を合わせることさえしないという状態では、患者さんの気持ちを感じ取るのは難しいです。患者さんに向き合い、感じ取ること。それを大事にした看護をしてほしいという思いがあります。

―看護の道を目指している皆さんにメッセージをお願いします

准看護師から看護師にステップを進めるにあたって、責任の重大性や仕事の大変さを感じることもあるかと思います。それでも、看護師の資格を取ることでご自身の将来に様々なビジョンが広がるのではないでしょうか。資格を取得して初めて見える景色もあると思うので、できれば頑張ってほしいという気持ちがあります。

看護職はずっと働けます。70 歳過ぎても働けるようになるかもしれません。学ぶ期間の 2、3 年は様々な制約が生まれるかもしれませんが、ぜひ「時間をつくる」ことから挑戦してみてください。

（聞き手：看護を考える委員会　委員長　須田　裕子）

在学中、真面目に取り組む姿勢が印象的でした。当校卒業後、臨床 15 年以上の経験をもち、当校に入職してくれました。卒業生が、教員として当校を選択し、戻ってきてくれることは、在学生にとってもとても意義あることと思います。

在学中の大変さも、楽しさも、在校生に伝えて欲しいと思っています。臨床での経験や教員養成研修での学んだことなど、新しい風を吹き込むことで、より一層学生のための学校にしていってほしいと思います。今後の活躍を期待しています。

教務主任　加藤　治美